119人 大きな一歩

戸田中央看護専門学校で戴帽式

戸田中央医科グループ（戸田市本町、中村隆俊会長）が運営する戸田中央看護専門学校の今年度の「戴帽式」が、川口市の川口総合文化センター「リリア」音楽ホールで開催された。

戴帽式は、入学してから一定期間、知識や技能力、人間性などの看護の基礎を学んだ学生が、看護を職業として選んでいく一つの区切りとして、看護の象徴であるナースキャップを戴く儀式。同校では、1977年の開学以来実施しており、25回目となる今年度の式は看護学科（3年課程）の1年生119人が対象となった。

学生たちは、ピアノの繊細な演奏に合わせて、皆で歩みをそろえて入場。「戴帽の儀」が始まると一転、パイプオルガンの重厚な音色が響き渡る中、儀式が進行された。一人一人名前が呼び上げられると、舞台へ登壇。中央に置かれたナイチンゲール像の前で、ナースキャップを戴いた。皆にキャップが与えられると、全員でナイチンゲールの看護の心を受け継ぐキャンドルをともし、「努力」「鍛錬」「勇気」をテーマに「全ての人への感謝を忘れず、夢と希望にあふれる看護師になります」と力いっぱい誓った。

式辞で中村毅校長は、学生たちへ「病やけがを抱える患者様とのやりとりは、教科書に載っていない多くのことを学ばさせてもらうことになる。常に感謝の気持ちを持ってほしい」と激励。患者に寄り添うことが看護の基礎であることや、医師と看護師の連携の重要性を語った上で、「人間性豊かな看護師に育ってほしい」と呼び掛けた。（勇有花子）

ナイチンゲール像の前で、キャンドルを手に誓いの言葉を述べる学生ら＝川口市の川口総合文化センター「リリア」